

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2021年
1月1日
No.119

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



みやづ作業所 仲間のはり絵 作品

新年のこぼれ話

理事長 青木一博

新しい年を迎え、法人関係者ならびに広報誌読者の皆様方の日頃のご理解、ご支援に心からお礼を申し上げます。

よさのうみ福祉会は、昨年12月に計画していた40周年記念コンサートを感染防止のため中止、12月8日の法人設立日を静かに迎えました。

折しも40年前のその日は、ジョン・レノンがニューヨーク市で凶弾に倒れた日。40年目の命日を記念したNHKドキュメンタリー番組の放送では「より良い世界をつくるのは人間の義務なんだ」と語るレノンの肉声がありました。

元理事長戸田晋さん(故人)は、戦争体験世代として、「戦争になるとまず障害者をはじめとする弱者が悲惨な思いをする」「平和でないと障害者福祉は向上しない」と私たちに繰り返し語られました。

法人設立日にあたり、よさのうみ福祉会『めざすもの』4つ目の柱を「基本的人権が尊重される平和で豊かな社会をめざします」としていることの重みを改めてかみしめました。

新型コロナウイルスの全世界的な感染は、これまでの社会のありかたを根本から問いかけ、社会的弱者と言われる人たちが安心して生きられる平和な社会への転換を強く求めています。

今年も『めざすもの』の実現をめざし法人関係者一同頑張ります。

皆様方の益々の
ご健勝をお祈りします。



法人設立40周年をめぐり、10年間の歩みを振り返る

前号(VOL.1)では、この10年間のあゆみの土台となった法人設立30周年記念事業を振り返りました。今号(VOL.2)は、この10年間の主な取り組み内容を報告します。

基本理念の見直しと法人のめざすもの策定

私たちは、1980年の法人設立時に『3つの理念と3つの課題』の基本理念を掲げ、その実現に向けた取り組みを展開してきました。設立から30年を経た2010年当時、「働く場」は10事業所、「暮らしの場」は入所施設いきいきと10か所のグループホーム、「支える場」は4か所の相談支援とヘルプ、シヨートステイ事業所を開設していました。

私たちは、設立30周年記念事業を通し、よさのうみ福祉会が府北部地域で総合的な障害者福祉事業を担う母体となっていることを関係者で共有し、その到達のうえに法人設立時の『3つの理念と3つの課題』を見直すことの必要性を確認しました。2010年から2年間、法人の理事会や職員会議で検討を重ね、未来を展望する基本理念『法人のめざすもの』を20

12年3月に作り直しました。

法人のめざすもの

法人の新たな基本理念『めざすもの』は、前文(略)と次の4つの柱で構成しています。

- ① 人間として生活していくために必要な権利の保障をめざします。
- ② 誰もが安心して暮らしやすい地域をめざします。
- ③ 一人ひとりの意見が大切にされ、社会から信頼される民主的な経営をめざします。
- ④ 基本的人権が尊重される平和で豊かな社会をめざします。

法人の中期計画づくり

長期的な目標、理念である基本理念は、制定すれば取り組みが自動的に進むものではありません。設立から30年余、法人は中期計画を作つてきませんでしたが、今後『めざすもの』を実現するには、中期・短期の計画づくりと実行、その検証が大切であることを何度も確認してきました。最初の中期計画を「第1次5カ年計画」としましたが、5年間は長すぎるので前期2カ年(2013〜14)と後期3カ年(2015〜17)に分けま

した。前期と後期5か年の重点課題を、①夢ビジョンづくり、②めざす職員像づくり、③福祉と地域の連携、④切実な願いの実現、⑤法人組織改革と財政運営としました。

その後は、府・市・町の自治体福祉計画の3年サイクルに合わせ、第2次3カ年計画(2018〜20)を作り直しました。そして、現在は、①第2次3カ年計画最終年度の課題遂行、②直近の3カ年間の検証、③次期第3次3カ年計画(2021〜23)を作成しています。

法人夢ビジョンづくり

『めざすもの』第1の柱「人間として生活していくために必要な権利の保障をめざします」は抽象的な表現なので、障害のある人たちの願いや思いを把握し、法人将来構想(夢ビジョン)として具体化するため13人のメンバーで、「法人夢ビジョン検討委員会」を結成しました。委員会は、法人内の事業所に聴き取りを呼びかけ、それぞれの職員が448名の利用者及び76名の家族から、仕事、暮らしなど現状への満足度、悩み、これからの夢や希望、不安などを集約し

VOL.2

理事長 青木一博

ました。聴き取りからは、「特別な願い」ではなく、「あたりまえに働き、暮らしたい」という思いや願いが集約されました。言い換えると、あたりまえに働き、暮らすには程遠い利用者の実態がまだまだあることを職員が改めて実感する機会となりました。

委員会は、集約された膨大な聴き取り内容を分野別項目別に整理するとともに、それらをイラスト化し「法人夢ビジョン」としました。(2014年度末完成)



法人夢ビジョン

(全ての事業所内の利用者・職員が目につく所に掲示しています。)

めざす職員像づくりと職員の育成

夢ビジョンと並行して取り組んだのが「めざす職員像」づくりです。

それまでは、「良い実践は先輩職員の背中を見て自ら考えよ」方式で、文章で整理した職員像はありませんでした。若い職員を中心とした要望に応え、2013年6月に11人のメンバーで「期待する職員像検討委員会」を発足。委員会はスタートしたものの、その方向は雲をつかむように行きつ戻りつしながらの論議となり2年間で21回の検討を重ねました。

その過程で、「期待する職員像」は“上から目線的”との意見が出され、「めざす職員像」へと表現を変更。「よさのうみ福祉会らしい」自分たちで考えるプロセスを大事に委員会の「案」を作り、事業所職員会議に提案、討議とアンケートによる意見集約を繰り返し、「めざす職員像」を練り上げました。法人内すべての職種に共通する「めざす職員像」ならびに16の職種別「めざす職員像」を整理しました。それらを、「大きな木」の形にすることで「未来に向かってのびていく」イメージの『職員像の木』（イラスト版）としました。(2015年3月完成) 委員会として次に取り組んだの

は、『職員像の木』をもとにして、16職種のすべてについて、「職員像としてのあり方」を深め文章で整理しました。

その後、2018年に「職員育成委員会」を発足。既存の「職員教育研修委員会」と二人三脚で法人内各種研修会の企画、立案と職員の支援力向上に取り組みました。

わたしたちは、こんな職員をめざします。



職員像の木

(法人内22カ所の事業所事務室に掲示しています。)

福祉と地域と行政の連携による リフレかやの里の再生事業



農産加工場で作る各種のジュース

リフレかやの里は、旧加悦町が1998年に農水省の補助を受け宿泊型保養施設として開設。その後10年間は第三セクター、続いて民間会社が運営してきましたが

2008年に倒産。3年間の閉鎖を経て、地域の強い願いで町が指定管理者を募集。紆余曲折を経て指定されたのがよさのうみ福祉会で、2011年4月、多機能型障害者就労継続A型・B型事業所として開設。与謝野町が1億5千万円の予算で改修、同年10月に再開したものです。

リニユーアルオープンから9年余が経過。障害者26人を14人の職員が支援。合わせて40人のスタッフがレストラン、大浴場、森のホテル、農産物生産と農産加工などに取り組んでいます。農産加工所

を利用される農家の方々からは、「これまで出荷出来ず廃棄していた規格外の野菜をジュースやジャムに加工してもらえる」と感謝されています。そのことが利用者の喜び、働く誇りとなっています。

2017年、京都府はリフレかやの里を京都式農福連携事業の府北部推進拠点施設に位置づけ、その促進を図っています。2018年8月にNHKのEテレ「ハートネットTV」で「リフレかやの里の障害者と地域との“おたぎやあさま”が紡ぐ地域活性化の物語」として全国放送で紹介され、内外から大きな注目を集めました。

リフレと地域再生の取り組みは、「めざすもの」第1の柱に基づき、織物業等の衰退による地域の離職障害者に高工賃の働く場を保障するとともに、第2の柱「誰もが安心して暮らしやすい地域」をめざす取り組みでもあります。

次号(VOL.3)は、「異業種4法人が連携し地域共生型福祉施設を運営」、「グループホーム整備」、「財政の健全化」、「虐待再発防止」をふまえ、「これからの10年」を見通します。

宮津市との要望懇談会実施

みやづ作業所

支援員 矢野 春香



毎年、宮津・伊根エリアでは、みやづ作業所・すまいの3事業所の自治会が「伊根の里」の3事業所・すまいの3事業所・すまいの3事業所が半年かけて、宮津市要望懇談会に向けて活動しています。

目的は、地域で生活する中で困っていること、住みにくいと感ずることを出し合い、宮津市に訴え、障害のある人たちも安心して暮らせる地域づくりを進めていくためです。

今年にはコロナウイルスの影響で、懇談会を開催できずのか危ぶまれましたが、みんなの要望を聞いてもらう場をなくしたくないという思いから、代表者のみの少人数参加という形で実現しました。

当日は、宮津市健康福祉部社会福祉課松島課長、障害福祉係永濱係長に来ていただきました。自治会代表者は緊張の中、出席できなかった仲間も大きな声で発言することができました。今年もたくさんの方の要望の中から4つに絞り、次のように回答をいただきました。

- ① 仕事の斡旋―現在宮津市役所の名刺作成をしているが記念品等も採用してほしい
- ② 回答 就労施設等優先調達目標額を定めています。令和元年度は167万円でした。2、3月に名刺のデザインをプレゼンしてもらえば、改めて職員に斡旋します。
- ③ 道路の整備―車いす利用者もあり通所時に使用する歩道と車道の段差をなくしてほしい
- ④ 回答 要望の箇所については、来年度予算に計上しできるだけ早く改修します。
- ⑤ 宮津市図書館の貸出しDVD・CDの種類を増やしてほしい
- ⑥ 回答 リクエスト用紙に希望するものを書いて下さい。
- ⑦ 市からの書類をわかりやすくしてほしい
- ⑧ 回答 ルビを振るなどしますが、分かりにくい文書があったら教えてください。



お忙しい中、懇談会に来て下さったお二人には丁寧な回答をいただき、要望にも前向きな回答をいただきうれしく思います。この要望懇談会は、約30年以上も続く歴史ある取り組みです。これからも大切にしながら、意見の出し合える作業所作り、また、住みやすい街づくりを進めていければと思います。そして来年は全員参加で要望懇談会ができることを願っています。

自治会との丹海バスに要望書を提出しました

峰山共同作業所

支援員 上田 真由美

みんなの願い

峰山共同作業所の仲間の自治会(くるみ会)では、「みんなが平等で毎日通い続けられる作業所」という仲間が昨年決めたスローガンをともにいろいろな活動をしています。今年度は、コロナの影響で野外活動等ほとんどの行事が中止となりましたが、その自分達が日々過ごしている作業所を少しでも心地良い場所にしようと、トイレの環境整備や古い傘の処分等実施しました。

そんな自治会活動の中に「要望懇談会」があります。これは仲間全員にアンケートを取り皆の困りごとを共有し解決していこうという活動です。お給料のこと、仲間同士のトラブルについて等毎年多くの困りごとや要望が出ます。その中の1つにバスへの要望があります。作業所では多くの仲間がバス通所されているので、たくさんの方の要望が出ます。昨年度は「丹海バスの峰山案内所に要望書を持って行こう」ということになりました。お渡ししたところ思いがけず返信をいただき、仲間一同驚いたと共

にうれしく思いました。そんな経緯もあり今年度は、「バスの本数を増やしてほしい」「身体に障害がある方にも乗降しやすいノンステップバスを増やしてほしい」といった内容の要望書を丹海本社へ自治会役員が持って行きました。

懇談もおこなうことができ、作業所の紹介をはじめいろいろなお話をすることができました。営業部谷口課長には丁寧な対応をしていただき「いつでも遠慮なく何でも伝えて下さい」と心強い言葉もいただきました。くるみ会会長のIさんは「緊張したけど作業所のことを知ってもらえたし丁寧に対応してくれてうれしかった。」と言われました。

仲間の要望を集め今後活動も続けていこうと思います。



要望書を手渡しました

障害者に関わる雇用施策と福祉施策の一体的な展開に向けて

インクルーシブ雇用議連(正式名称 障害者の安定雇用・安心就労をめざす議員連盟)が、2018年2月に雇用施策と福祉施策の一体的な展開を実現することを目的に国会にて超党派で結成されました。17の障害者団体も市民側として参画しており、学習会をおこなったり提言をおこなうなど積極的な取り組みが展開されています。障害者雇用促進法が改正されたときにも、「通勤支援や就業中の生活支援について今後検討していく」との付帯決議がついたのも、この議連の働きかけが大きな力となりました。

その後、参議院選挙にて重度障害のある議員の誕生により、就労中に福祉サービスが受けられないという問題が社会的にクローズアップされたこともあり、厚生労働省内に検討会が立ち上がり検討が進められることとなりました。この検討会では、その下に①障害者の就労能力等の評価の在り方について、②障害者就労を支える人材の育成・確保について、③障害者の就労支援体系のあり方についての3つのワーキンググループにて2021年1月から本格的に検討されます。

このインクルーシブ雇用議連、検討会の2つの取り組みが、障害のある人があたりまえに働ける社会づくりに向けて大きな役割を担っています。



きょうされんホームページより学習会の様子

きょうされん全国理事
峰山共同作業所
管理者 山口高志

きょうされん国会請願署名にご協力をお願いします。

きょうされん京都支部
丹後ブロック長
伊根の里 管理者 岩崎 圭史

例年この時期になると、各地域でこんな声を耳にします。よさのうみ福祉会の各事業所が加盟しているきょうされんは障害のある人たちの「仲間と一緒に働きたい」「生まれ育った地域で暮らしたい」という当たり前の夢や願いの実現に向けて、結成以来毎年国会請願署

名に取り組んできました。その署名も今回で44回目となります。毎年粘り強く訴え続けることで、障害のある人達の置かれている現状を地域の人々に伝え、多くの方々とながら、さまざまな制度を作り出してきました。

この署名活動がなかったら、目の前の仲間たちの暮らしは今よりもっと厳しいものになっていたかもしれません。前回の43回国会請願署名は残念ながら衆議院・参議院ともに不採択という結果になりましたが、全国で86万筆を超える署名が集まりました。

第44回国会請願項目

1. 新型コロナウイルスの感染拡大の下、障害のある人がコロナ禍の下でも安心して生活できるようにすることを要望します。
- ア、障害のある人や支援者が安心して検査や医療が受けられること
- イ、収入減となった事業所に対する工賃補償
- ウ、新型コロナウイルス等の感染症や災害時にも安定して事業運営ができるよう日額払い制度を改めること
- エ、福祉に携わる人の労働条件を抜本的に改善できる報酬にすること
- オ、地域活動支援センターに対するコロナ禍の給付を総合支援法と同じ取り扱いにすること
2. 「旧優生保護法に対する一時金支給等の法律」には謝罪を明記し支給額を見直す等してください
3. 障害のある人が65歳を超えても必要とする支援を自ら選んで自己負担なく利用できるようにして

私たち「一人一人の声」が着実に「みんなの声」となっているのです。

署名活動を通じて、たくさんの人々に私たちの願いを知ってもらうには地域へのアピールが欠かせません。これまでも仲間・職員一緒になって、署名用紙を片手に街頭署名や地域への各戸訪問などをおこなってきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が今回の署名活動に大きな影を落としています。しかし、私たちにはこれまでの43回の署名を通じてそれぞれの地域で積み重ねてきたものがあります。「できない」で終わるのではなく、コロナ禍だからこそできることを見つけていきたいと思えます。

地域の皆様、ぜひ国会請願署名へのご協力をお願いいたします。一筆一筆の署名が一人一人が大切にされる社会につながると信じて…。



12月18日 署名学習会は36名の参加でした

『防災・被災』宿泊体験の取り組み

支援センターろむ
支援員 糸井公美

本当に地震がおこったら困ります。電気がないと困ります。歯みがきができないと困ります。お風呂に入れないと困ります。お風呂が寒いと困ります。不安になります。どうしたらいいかわかりません。家族で考えます。ハザードマップも見ます。地震がきても避難できるようにがんばります。(ろむでの1泊2日の防災・被災宿泊体験を終えての仲間の感想です。)



防災・被災宿泊体験をしました

命を守ることを最優先に!!

10月29日、30日ろむ生活訓練「さらに」のとりくみとして、1泊2日の「防災・被災宿泊体験」をおこないました。例年、東日本大震災に合わせて地震の学習をおこなってきましたが、今年度は、年間計画の中に、いつ起こるかわからない災害に備えるためのカリキュラムを設定し、毎月、避難訓練を実施してきました。想定は、地震・火事・洪水・不審者などさまざまですが、座学と体験を組み合わせて、災害に応じて自分の安全を確保する行動を繰り返して学んでいます。



ダンボールベッド完成

どうせやるなら、本格的な体験を！今年度は、災害後の避難生活体験を実施。ろむのある京丹後市にはどんな備蓄がある？そのまま、京丹後市さんへ「質問！」食料に関しては、55、000食が備蓄されていることや京都府と協定を結んでいることなど丁寧に教えていただきました。「さらに」の取り組みの趣旨を話し、学習で使用する目的で、避難マット、段ボールベッド、防災トイレ、トイレのための TENT を借用、防災食、保存水も提供していただきました。みんなで話し合い、避難生活体験時は電気・ガス・水道は最小限しか使わないことに。まずは、段ボールベッドの組み立て。折り目のない真新しい段ボールは、組み立てるのに一苦労。少



暗い中、大根の菜っ葉カレーを食べました

し固いけど、十分な寝心地です。仲間が一番驚いたのは段ボール製の防災トイレ！想像以上に小さい！でも想像以上の強度。もちろん水洗ではありません。排泄物がいつたどこに行くのか：袋の中に排泄することを知った仲間たちは目が点…。実際には使っていませんが、使用するには勇気が必要！でも、緊急時はこのダンボールトイレに助けられるのです。夕飯は、アルファ米と「さらに」が畑で作った大根の葉入りカレー。懐中電灯で照らしての調理と食事。おいしいけれどなぜか静かな夕飯タイム：暗いだけで話が弾まない：ふだん、あたりまえのように点けている電気のありがたさが身に沁みました。そして、今日の入浴と、



ウェットティッシュではみがき!



起震車体験 “震度7”

いつもの歯磨きは無し。ウェットティッシュでの歯磨きはやりにくかったです。就寝時間、みんな真つ暗なるむは初めてで緊張し、なかなか眠れませんでした。不便で不安な夜は、きつとも長く感じたことでしょう。
2日目「起震車に乗ってみよう！」
京丹後市峰山消防署に行つて、起震車体験。「こわい」だけが残らないように、「地震がおこったら頭と体を守る」ことが体験で残るように。震度7を体験するとやっぱり「こわかった」という意見が多かったですが、全員が机の下で自分の身体を守る行動がとれました。
東日本大震災では、多くの方が犠牲になり、その中でも障害のある方の死亡率は、健常者の2倍であったと言われています。だからこそ、緊急時に命を守る行動がとれるよう体験を重ねることが重要。実際に目の前で起きていないことはなかなかとらえにくいものですが、ふだんから想定外に備えることは大切だと感じた貴重な2日間となりました。

丹後圏域障害者雇用促進セミナーを開催して

昨年開催したセミナーの反響から

昨年は、こまち開設10周年企画として「丹後圏域障害者雇用促進セミナー」を開催し、丹後地域の企業の方を中心に90名近くの参加がありました。アンケートには、「障害者雇用について、より詳しく知りたい」「先進的に障害者雇用をされている企業の話をお聞きしたい」などの声をいただき、本年も開催する方向で進めてきました。

「コロナウイルス感染防止への対策

今年に入り新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催が危ぶまれましたが、「3密にならない」「検温・消毒を徹底する」「飛沫飛散パネルを設置する」などの対策をおこない、会場は40名限定で2回開催としました。10月30日は京丹后市、11月27日は、宮津市・伊根町・与謝野町のそれぞれの企業や関係機関の方々を中心にしました。

励ましのメッセージを受け

2回のセミナーには、企業15社、教育機関6校、行政5ヶ所、地元議員5名、1団体から計89名にご参加いただきました。

初めての企画「私の履歴書」は、単に事例紹介ではなく、昨年就職されたご本人が登場し生の声が聞

こまちの職業訓練「オフィスソフト基礎科」

障害者就業・生活支援センターこまち

就業支援相談員 乙野 明美

こまちでは一般就労をめざしハローワークに登録している方を対象に3か月間の職業訓練をおこなっています。月曜から金曜まで毎日5時限あり、講師はこまちの職員が務めます。そのうちのオフィスソフト基礎科ではパソコン知識や決まった指でキーボードを押すホームポジションの練習。またWordやExcelの基本操作の習得

を目指し、案内文や売上表や年賀状などオフィスワークを想定した文書作成をしています。パソコン操作以外の面でも一人ひとりの課題に向き合い、スモールステップで目標を設定し、1か月ごとに振り返りをおこない、自信につなげていけるように相談員が対応します。

受講生からの声

卒業生から年賀状をいただきました。その方は授業で年賀状を作成したときに、「パソコンで年賀状や住所録を作ったことがなかったため、働いていたときに年賀状を作成できずに仕事が辛かった」と話しておられました。営業職に就いていた時、お得意様への年賀状

を作成できず、また周囲にそのことが言えず、辛かったそうです。今回勉強したことを活かして、年賀状を作成しそのうれしさを伝えてくれました。

現在は、三名の方がそれぞれ「事務系の仕事がしたい」「休まず通い続ける」「タイピングスピードをアップする」などの目標を持って通所しておられます。

現在ではどの職場でもパソコンを使用する時代です。パソコンを使用することは特別なことではないのですが、強みの一つとして活かして活躍してほしいと願っています。



パソコンでの授業の様子



企業からの提案の様子



親の音

幼少期、学校時代

真由美を生んだのは当時住んでいた尼崎でした。早いものでそれから58年が経ちました。

小さい頃は一人遊びが好きで子でトッポジョージョの人形で遊んでいたのを憶えています。亀ヶ岡保育所に通うことになったのですが、毎日嫌がらずに通えたのは保育所の階段のところまで男の子が待っていてくれたからでしょう。そんな光景も憶えています。宮津中の障害児学級時代は、宮津中前の踏切が怖くていつも走って渡っていたらしいです。支援学校へは高等部から入り3年間がんばってバス通学していました。支援学校卒業後は宮津共同作業所へ入所し、ジャコ袋貼りや箸袋入れをすることになりました。

みんなで頑張った親の会

親の会や後援会の取り組みをがんばってきたなあと振り返っています。いろんなイベントでうどん販売、草刈りのアルバイト、しいたけの原木出し、バザーなど運営資金稼ぎに汗を流しました。バザーの値付けに参

すまいる

利用者家族 久保田 笑子

加した夜のことをよく思い出します。夜中まで値付け作業をしてやれやれと外に出た時の夜空の星がきれいだったこと。

今までで一番印象に残っていること

いろいろと苦労や喜びもありましたが、私にはのんきなところがあるので…。忘れたことも多いです。でもやっぱり忘れられないことがあります。それは真由美が2歳くらいの時、つかまり立ちができて、手を放して最初の一步の瞬間。ハイハイの時期が長かっただけにうれしかったです。そんな真由美も58歳です。将来的にはグループホームでの生活になるのかもわかりません。これからよろしくお願ひします。



久保田 真由美さん

たくさんの人に支えられて

9年前に地元に戻るようになったとき、地元で何の仕事しようか悩んでいました。たまたま学生時代の友人の多くが福祉業界に就職しており、仕事内容等の話を聞いて興味を持ったこと、また私は前職で和菓子店で和菓子を作っていたのですが(今でも和菓子が大好きです)、そこで自閉症の方と一緒に働いていたことを思い出し、応募してみました。うと思っただのがきっかけです。

リレー随想



伊根の里 支援員 平林 将士

したり、時には私のプライベートな悩みを聞いてもらったりと大変お世話になり、本当のおはあちゃんのように慕わせていただきました。現在は「伊根の里」で5年目を迎えて、楽しく仕事をしています。「伊根の里」は仕事中はとても静かですが、昼休みや休憩時間には笑い声が絶えずにぎやかな雰囲気です、また毎日の送迎で見える伊根の舟屋群の街並みにいつもほっとしています。そんな「伊根の里」が大好きで、いつか伊根町に移住したいとも密かに考えています。早いもので、私もこの4月で法人に勤めて10年目を迎えます。刻々と変わる社会情勢の変化の中で、専門職としての役割にどう応えることができるのか、またできているのか…。時にはつまずき悩むこともありましたが、たくさんの方に支えられていることを胸に、2021年も「ロナ」に負けず「より元気に！より笑顔で！」仲間の願いに寄り添えるようにしていきたいと思っています。

入職後の4年間は夢織りの郷つむぎに配属となりました。出勤初日、非常に緊張していた私は「若い男性が来た」と仲間の皆さんに笑顔で迎えていただきました。担当していた班では、ボランティアで毎日来ておられた、ある仲間の当時70代のお母さんと一緒に仕事をすることが今も楽しい大切な思い出です。その方から数十年前から今日に至るまで「自分しかない」という気持ちで乗り越えてきたという苦労話や楽しかったことなどをお聞き

次回は
与謝野町障害者相談支援事業所 結
主任 竹原ちひろです。

クリスマス演奏会大成功!

ワークセンター花音

主任 内田 真奈美

12月11日に利用者の自治会取り組みとして、クリスマス演奏会をおこないました。清掃班の山本瀬奈さんは、花音に通所が決まった時「夢は何ですか」の質問に「お給料を貯めてトランペットを買いたい」と答えました。彼女は一生懸命お仕事をして貯金し、1年半でトランペットを購入しました。

そして、ウインドオーケストラ所属の千賀繁先生のご好意で、月2回指導していただき、ついに数曲吹けるようになったのです。

「瀬奈さんの演奏を聴いてみたい」との声が上ががり、「クリスマス演奏会を企画しよう」と自治会を中心に準備を進めました。リコーダーの得意な大江三樹さんもその腕を披露することになり、他のみんなも参加できるよう「パプリカ」のダンス披露も企画し、毎日練習しました。

当日はまず大江さんが永島淳子先生（いつも子育て支援センターでお世話になってます）の伴奏で「赤鼻のトナカイ」「あわてんぼうのサンタクロース」の2曲をリコーダーで演奏し、他の仲間も合奏で参加しました。次に山本さんが千賀先生と共にトランペットで

「さんば」「タイタニック」「美女と野獣」等全5曲を披露しました。素敵な音色に、思わず「すごい」の声が上がるほど、どちらも見事な演奏でした。職員による「パネルシアター傘地蔵」も楽しみ、最後に「パプリカ」をみんなで踊り、大盛り上がりで終了しました。コロナ禍で気持ちも沈みがちな中、ひと時の楽しい時間を過ごすことができました。

トランペット演奏



みんなでメリークリスマス!



おたのしみ夕食

「おいこーぶちゅー」
「デザートつきー」



豪華! 松花堂弁当

長岡ホームでの仲間への食事は、食材配達業者のメニューに従って毎日の食材が宅急便で届きます。いろいろなメニューがあり、食材の買い出しや献立検討をしなくてよいメリットはありますが、一方で金銭的な制約もあり、時には少し「さみしい」メニューの時もあります。

そこで、内部で検討し、2020年1月よりホームの夕食改善に取り組みました。具体的には毎週金曜日の夕食を「お楽しみ夕食」と銘打ち献立を決めて、管理者と主任が食材を地元スーパーで購入し、調理にも入ることにしました。また、時には男性ホーム・女性ホーム合同の食事会もおこないました。2020年2月には仲間アンケートを取り、「食べたいもの」「食べたことはないけれど食べてみた

長岡ホーム

主任 西川 悟子

もの」など聞き取りをおこない、毎月のメニューを決めています。仲間からは「今日はとんかつだなあ。だれがつくるん? みんなで食べると楽しいわ」と声をもらい、職員も一緒に食事をし、ワイワイと楽しく過ごしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、現在は各ホームで食事をしていない状態です。最近「落ち着いたらまた一緒に食べたいね」との声もあがってきます。

食材購入とメニュー検討をホームでおこなうことにより、コストを食材にかけることができ、より豪華で自由度のある食事にできます。職員としては少ししんどい部分もありますが、仲間の「おいしい」「お腹いっぱい」「楽しい」の声に押し返されてこれからも奮闘していきたいと思えます。



金曜日はワクワクです!

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

2020年10月17日～2020年12月20日

(順不同・敬称略)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------|--------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--------|---------------------------------|---|--|----------------------------|------|------|------|-------|------|-----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|----------|---------|---------------|
| 清島山竹西楠奥三片神中内西佐萩小小大洪森北伊清狩萩松日 | 水山本内原野田岡谷川倉藤垣野原谷出西谷永風達水野原村下部 | 伸優美好一文菜正志茂孝久美子幸恵理子昭己男之久代雄子子幸士繁 | 寛江子正恵一雄月志乃男之 | 星山廣山今今木拜三日月石佐藤山佐藤有大大黒金西多沖入佐滝滝谷 | 本山谷崎井井井下野節孝星下倉木原崎住由さ加邦田泉田直垣明美 | 幸喜恵春昌博節孝治男孝隆一郎子男由加里紀代子暉学人博美 | 敏美枝子清美子美子治男孝 | 池小小黒蔭山味味真川山山山上三西小北深杉戸戸小濱加小小細星 | 添田西田隆保山口田欣下村上本宅陽彬ひと尾田幹正和樹子加夫子一明二 | 素江里子男夫守子一み好博優男也子則み夫和樹子加夫子一明二 | 荒森西太中南山多渡阿井小岡水渡直萩田井倉井岩大市川米下山大江成玉新椿 | 川垣井田村本田部路山上山田口辺木野家上上崎門川上谷野マ幸道勤泰久 | 俊佳利貴孝理恵子の昭祐ひろみ正雄茂真理子綾作己寛司靖より史志彦輝郎 | 宏代治美義子 | 井上尾京岡野佐森奥田安洪梅内小寺糸萩加山下吉志高吉貫新松千杉富 | 笹家上近田村々木戸田上田谷垣田山本井野小山本井野加賀岡月岡悦英名田浩美由幸子努 | 立幸真由美里幸希子幸男由紀子陽子樹子世紀子美奈美里三四子尚之清美佐子輝美安男功浩美子 | その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。 | 白須宗明 | 濱中哲也 | 山岡優子 | 小西美千代 | 今田和枝 | 坂根均 | 羽田文代 | 有吉豊美 | 芝井光子 | 三宅真奈美 | 新庄久美子 | 小谷美和子 | 下岡久美子 | 西脇弘子 | 西脇康太 | 浦島久美子 | 青木伸博 | 青木伸博 | 谷口富彦 | 社会福祉法人桃郷 | あゆみが丘学園 | 与謝郡聴覚言語障害センター |
|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------|--------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|--------------|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--------|---------------------------------|---|--|----------------------------|------|------|------|-------|------|-----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|----------|---------|---------------|



編集後記

仕事から帰れば上げ膳、据え膳。最近、環境が変わり自分でしなればいけないようになったのでクックパッドを見て料理をしている。母親は料理が好きだけれど、分量でやるのできちんと分量を知りたい私には駄目で、分量がきちんと書いてあるクックパッドを見て料理している。面倒くさい私は、有料会員になりランキング別でセレクトをして挑戦。お金を払っている分、上手くいく成功率は高い！成功すると嬉しくなると今度この料理に挑戦してみよう！という事で最近、料理のレパートリーも増えた。今年、ケーキ教室に5回行ってみた。高校生の頃に何度挑戦しても全然膨らまなかったケーキが先生にコツ等も教えていただき綺麗に焼けたのは感激である。上手くできた時は、お野菜をもらおう近所の奥さんに持って行く。喜んでもらえるから持って行くのであるがクックパッドが先生って知らないだろうなあ(笑)。皆さんも家で料理を食べた時「美味しい」って言ってあげて下さい。

(大)

